

# 協働事業評価シート

部課名	文化スポーツ部 文化芸術振興課	記入年月日
記入団体名	川越シニア大学『小江戸塾』	平成25年12月20日

予算事業名	協働の推進	新規 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/>
-------	-------	--

協働事業名称	川越シニアカレッジ「ふるさと塾」	
協働事業の概要	<p>この講座は、川越に関する著名な先生方を講師にお迎えして、基礎学習・現地学習を学ぶとともに受講者主体のグループ活動を実践するものであり期間・会場・講師等は下記の通りです。</p> <p>期間・回数：平成25年7月10日～12月11日 全12回                  時間：午前9時30分～午後3時30分                  会場：市民会館 他                  対象：川越市在住55歳以上（受講者数30名）</p>	
協働事業の決算額	143,000 円	<small>委託額及び補助金額を記載</small>
事業の実施期間	平成25年7月10日～平成25年12月11日	

協働の提案者	川越市からの提案	市民活動団体等からの提案	
協働の形態	補助・助成 実行委員会・協議会	共催 協働委託 事業協力	後援 情報交換・情報提供 企画・計画立案への参画

## 【協働事業評価について】

評価基準... ・大変よくできた(5点) ・よくできた(4点) ・できた(3点)  
 ・あまりできなかった(2点) ・全くできなかった(1点)

	評価の視点	実施段階	評点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	中前	5	5	5
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	中前	5	5	5
3	事業目的を共有することができましたか。	中前	5	5	5
4	市民活動団体等の自主性・自立性は尊重されましたか。	後	5	5	5
5	行政と市民活動団体等が対等な立場で事業を実施できましたか。	後	5	5	5
6	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	5	5	5
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	5	5	5

合計点数	35点
------	-----



## 『川越シニアカレッジ「ふるさと塾」』の実施状況

### 【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

#### 【行政】

川越シニアカレッジ「ふるさと塾」は、高齢者の学びと仲間作り、また子どもたちの学習を支援するボランティアの育成を目的とする講座です。

実施にあたり、小江戸塾の多くの方々が運営委員として参加し、各回をご担当されていましたが、各回ごとに打ち合わせや反省会を行い、それぞれの役割を確認し、またグループ学習や市内の歴史名所の散策などの時にも、きめ細やかな指導や気配りができていたと思います。運営委員自身も数年前にこの講座を受講した卒業生という、近い目線で援助ができるため、より効果があるものと思われま。協働事業とすることで、団体と市の双方の特性を活かし、より良い事業展開が出来ているものと思われま。

#### 【市民活動団体等】

川越シニア大学『小江戸塾』は社会のニーズを受けて、元気なシニアの仲間づくりを行い、力をあわせて現役時代に培った知識・経験と、生涯学習を通して得た知識・経験を生かして、子どもたちと共に川越の歴史・文化・自然・環境・その他について遊びながら学び・学びながら遊ぶ活動をすすめてまいりました。この活動の後継者の育成が必要です。平成25年度提案型協働事業として川越シニアカレッジ「ふるさと塾」を開講し、事業展開をしてまいりました。今後もこの仕組みの適用を切に希望いたします。

### 【川越市協働事業審査委員会における評

			評価結果
A	6名	当該協働事業を実施したことで、具体的に公共サービスが向上する等、適切な協働事業として評価できるものであった。	<b>A</b>
B	3名	当該協働事業について、課題はあるが、ほぼ適切な協働事業として評価できるものであった。	
C	1名	当該事業を協働事業として実施するには課題があるため、事業を継続する場合は見直しが必要である。	
D		協働事業としてうまく機能しなかった。	

#### 【事業に関するコメント】

別紙に転記

協働事業名称	川越シニアカレッジ「ふるさと塾」
--------	------------------

【事業に関するコメント】

- ・学びの場や仲間作りの場は生涯学習の面からも必要なものと思われます。事業の目的の一部に子どもたちの学習支援もありましたが、講座の中に体験として実際に子どもと関わる時間が組み込まれていると、より良いものになるのではないかと思います。
- ・元気なシニアの仲間づくりに、きめ細やかな指導や気配りをして今後とも益々の活動を希望したいと思います。
- ・写真やアンケートから受講生のみなさんの学ぼうとする真摯な姿勢がうかがえました。会場費が高額なのが気になりました。登録団体にするなどで低額に押さえ、その分をグループ活動費などに当てるなどを考えて欲しい。
- ・川越シニアカレッジ「ふるさと塾」の受講者も多く活発な活動をしていることがうかがわれる。ただ、本事業の目的が「子どもたちに知識・技術・知恵を伝承する人材育成」にあるのであるから、本塾の受講者が受講の結果を活かして学校などの体験学習などにどの位参加したかが本事業を評価するポイントである。この点が事業実施報告で明らかにされていないのは残念である。（本事業の真の目的はふるさと塾を通ずる高齢者の仲間づくりと改めるべきか）
- ・生涯学習の時代にふさわしい事業である。
- ・元気で活力あるシニア世代が、自分の住む街を愛し、これまでに培ってきた経験や知識を地元還元すべく、子どもたちに伝えていくという趣旨は、時代に合った素晴らしいものだと思うが、実際には、募集する受講者数の少なさ、運営に当たる人が過去の受講者であるという状況から、少々排他的な、仲間内の活動になっている感じがする。講義はともかく、「街並みウォッチング」や「自然観察」など、一般の参加を認めてもいいのではないか。また「...子どもたちと共に.....遊びながら学び.....」という活動はあまり見られなかったように思う。事業報告として最も聞きたいのは、「学習成果発表」である。
- ・期間が短いという意見も在り、これからは2年間継続するとか、事業によっては複数年でも良いという事を考えもある。
- ・生涯学習としては有効な手段である。
- ・仲間づくりをして頂き、老人会などの人数を増加させることが出来ればさらに良いと感じる。
- ・学校や自治会と連携し世代間交流のリーダーになってほしい。
- ・地域の老人会と呼ばれている団体への加入者の数が減ってきている現状がある。ふるさと塾を受講した方が老人会に加入し、地域の世代間交流のリーダーになり活躍してほしい。
- ・卒業した方のその後の活躍する場での状況、つまり学習成果が知りたい。

# 協働事業評価シート

記入団体名（部課名）	文化スポーツ部 文化芸術振興課
記入者（職名及び氏名）	南古谷ウインド・オーケストラ

記入年月日	平成25年10月23日
-------	-------------

予算事業名	協働の推進
-------	-------

新規 <input type="checkbox"/>	継続 <input checked="" type="checkbox"/>
-----------------------------	--

協働事業名称	南古谷ウインド・オーケストラ 第3回定期演奏会	
協働事業の概要	<p>南古谷地区の中学生を演奏者とした「南古谷ウインド・オーケストラ第3回定期演奏会」を実施する。演奏会までの練習の中において、大学生等による楽器の指導等を通じて、大人と子どもが協力し合い、地域における新しい音楽文化の育みと振興、心豊かな人間形成を築いていくことを目的とする。</p> <p>平成25年1月から月に2～5回の練習を開始。</p> <p>補助採択後の練習日【7月6日（土）、13日（土）、14日（日）】</p> <p>南古谷ウインド・オーケストラ第3回定期演奏会</p> <p>実施日時：平成25年7月15日（月）午後2時から4時30分まで</p> <p>実施場所：東邦音楽大学</p>	
協働事業の決算額	200,000 円	委託額及び補助金額を記載
事業の実施期間	平成25年7月15日（月）	

協働の提案者	川越市からの提案	市民活動団体等からの提案	
協働の形態	補助・助成 実行委員会・協議会	共催 協働委託 事業協力	後援 情報交換・情報提供 企画・計画立案への参画

## 【協働事業評価について】

評価基準... ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）  
 ・あまりできなかった（2点） ・全くできなかった（1点）

	評価の視点	実施段階	評 点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中前	5	5	5
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中前	5	5	5
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	4	5	4.5
4	市民活動団体等の自主性・自立性は尊重されましたか。	後	4	5	4.5
5	行政と市民活動団体等が対等な立場で事業を実施できましたか。	後	5	5	5
6	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	4	5	4.5
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	4	5	4.5

合計点数	33点
------	-----



『南古谷ウインド・オーケストラ 第3回定期演奏会』の実施状況

### 【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

#### 【行政】

南古谷ウインド・オーケストラの方々には、文化芸術振興課の主催事業（大学ビッグバンド・ジャズフェスティバル等）においてもご協力をいただいています。

オーケストラの活動に関しては、東邦音楽大学、地元自治会、中学校、高等学校の協力のもと演奏活動を行っています。この活動が地域に留まらず、自然体の事業として各地域に広がっていくと良いと思います。文化の香り高いまちとして、音楽を通じて街が活性化されることを行政側としても望んでいます。

#### 【市民活動団体等】

何時も各学校等の連絡調整に悩まされるが、各学校や保護者の理解も進み運営的な難題が少なくなってきた。また、短期の集中練習の中でも演奏技術の向上や豊かな感性の育み、異年齢の交流の親密さが増したように感じられた。発足当時は約60名であったが、現在では約130名になり大編成の演奏を楽しんでいる。

月2回ほどの練習も中学生、高校生及び大学生や一般の人も在籍している楽団は、それぞれの演奏会などで思うように時間がとれず何時も苦勞しているが、最近では中学3年生が受験が終わり高校生として残る人が出るようになったり、大学生になっても在籍するケースもあり、そして音大の附属高校生が他大学に進学した学生がそのまま残り続けていたり多彩になってきた。地域の子どもから大人までの幅広い層に音楽の楽しさや懐の深さを知り情操教育の一環を担い、文化水準の向上を図りつつ、生涯学習としての核になりつつある事は大変に嬉しく感じている事である。

最後に、川越市、川越市教育委員会、川越市自治会連合会、川越市吹奏楽連盟の後援を頂きました事に御礼申し上げます。

### 【川越市協働事業審査委員会における評価】

			評価結果
A	6名	当該協働事業を実施したことで、具体的に公共サービスが向上する等、適切な協働事業として評価できるものであった。	A
B	2名	当該協働事業について、課題はあるが、ほぼ適切な協働事業として評価できるものであった。	
C		当該事業を協働事業として実施するには課題があるため、事業を継続する場合は見直しが必要である。	
D		協働事業としてうまく機能しなかった。	

#### 【事業に関するコメント】

別紙に転記

### 【事業に関するコメント】

・異年齢の交流が行われる事業は今の社会にとっても必要なものだと思います。また、音楽は皆の心を豊かにし、特に、中学生がこの様な大きな舞台で演奏を体験する事は情操教育につながると思いました。課題となるのは、各地域へどのように広げていくか。協働事業は3年目で終了となるが今後も行政と連携し、市内全域の人々が参加できる仕組みを考えていってほしいです。

・地域の子どもから大人まで幅広い層に音楽の楽しさや人間形成を主に活動し年々すばらしい演奏会となることを楽しみにしている。

・目的は他地域の中学生との交流・演奏技術の向上をめざしている。「音楽」を通し、異年齢との交流の機会を今後大切にしてほしい。地域内の子どもだけでなく市内に広めてほしいすばらしい事業でした。

・市全体の音楽レベルの底上げのためにも、他地域の学校にも枠を広げて下さるよう、長い目で応援していきたい。

・本事業は、東邦音楽大学の所在する南古谷地区の中学生を演奏者とする「南古谷ウインドオーケストラ」が組織され同オーケストラが演奏会を実施するものである。演奏会の実施を通し地区における新しい音楽文化の育みと豊かな人間形成を図ろうとするものである。本事業も協働事業として継続3年目となり定着し、地区の音楽文化の形成の核心となっている。今後、南古谷地区にとどまらずこの種の事業を川越市全体に広げていくかが重要となる。

・中、高校生を中心とするウインド・オーケストラは全国的にも多くあるが、本事業について言えば、音楽的にも、パフォーマンスの上でもかなりレベルは高く、何よりも出演者が楽しんでいる様子が見られたのがよかった。この理由としては、地元音楽大学の協力、指導があったことが考えられる。ただ、当日の集客状況を見ると、関係者の家族が多く、同年代の中・高校生が少なかったことが残念である。他の中・高校への呼びかけがどの程度なされていたのか。他校でクラブ活動で吹奏楽などをやっている生徒たちとの競演（共演は難しい）などをすることで、本事業が、限られた地区ではなく全市のものとして浸透すると思う。また会場へのアクセスが悪いが、当日、バス輸送などを考えられないか。大学へ進学しても参加している人が増えているとのことだが、むしろOB・OGのグループを立ち上げることが望ましいと思う。そうなれば、彼らが他校への指導者として活躍の場ができるはずだ。

# 協働事業評価シート

部課名	文化スポーツ部 国際文化交流課
記入団体名	かわごえ国際ボランティアの会

記入年月日	平成25年11月20日
-------	-------------

予算事業名	協働の推進
-------	-------

新規 <input type="checkbox"/>	継続 <input checked="" type="checkbox"/>
-----------------------------	--

協働事業名称	かわごえ国際交流フェスタ2013	
	かわごえ国際交流フェスタ2013の開催。 開催日時：平成25年11月10日(日)午前10時～午後4時 開催場所：蓮馨寺。参加人数：約2,500人 実施内容：会場内にてパネル展示、民族料理、民芸品の紹介、民族音楽、民族踊り等のパフォーマンスの実施。川越市や近隣で活動する国際交流団体及び国際ボランティア団体の協力のもと国際交流と国際ボランティア活動の啓発を行った。	
協働事業の決算額	92,000 円	委託額及び補助金額を記載
事業の実施期間	平成25年11月10日	

協働の提案者	川越市からの提案	市民活動団体等からの提案	
協働の形態	補助・助成 実行委員会・協議会	共催 協働委託 事業協力	後援 情報交換・情報提供 企画・計画立案への参画

## 【協働事業評価について】

評価基準... ・大変よくできた(5点) ・よくできた(4点) ・できた(3点)  
・あまりできなかった(2点) ・全くできなかった(1点)

	評価の視点	実施段階	評 点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中前	4	3	3.5
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中前	4	4	4
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	5	4	4.5
4	市民活動団体等の自主性・自立性は尊重されましたか。	後	5	5	5
5	行政と市民活動団体等が対等な立場で事業を実施できましたか。	後	5	5	5
6	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	5	5	5
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	4	4	4

合計点数	31点
------	-----



『かわごえ国際交流フェスタ2013』の実施状況

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

市民活動団体が事業を行うにあたり、「協働事業」とし、市がバックアップすることにより充実した事業を行うことができるようになる。  
 今後も、共通の目的を達成するために、それぞれの立場を尊重しながら、協働事業を行うことは必要であると考えます。

【市民活動団体等】

今回で7回目になった本イベント。これまでの協働事業の実績もあって、無駄のない打ち合わせで進めることができ結果においても大盛況であった。ただひとつテント、長机等の機材の不足（老朽、不具合による）という事態は、市の担当部署のみでは対処できない問題である。市民活動の活性化という観点からも、機材等のハード面での充実を行政に望みたい。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

			評価結果
A	3名	当該協働事業を実施したことで、具体的に公共サービスが向上する等、適切な協働事業として評価できるものであった。	<b>B</b>
B	7名	当該協働事業について、課題はあるが、ほぼ適切な協働事業として評価できるものであった。	
C		当該事業を協働事業として実施するには課題があるため、事業を継続する場合は見直しが必要である。	
D		協働事業としてうまく機能しなかった。	

【事業に関するコメント】

別紙に転記



### 【事業に関するコメント】

・団体が持つ、つながりや実績を活かしたからこそ良いイベントとなったことが感じられました。協働事業として次年度は開催できませんが行政と共催や協力関係で行うことで広報面や信頼性は継続できるのではないのでしょうか。資金面については参加費だけでなく、寄付や協賛なども検討してはどうでしょうか。このイベントが続くことを願っています。

・国際ボランティアと交流の意義を広く市民に浸透してもらうために、それぞれの国の特徴をPRして市民に理解してもらうと良い。

・国際ボランティアと国際交流の意義をとらえていないと理解できないのではないかと。もっと市民に伝える工夫がほしいと思いました。

・事業の目的（市民の異文化の理解の促進）は正当であり、また事業の実施を通じてそれなりに目的も達成されているが、やや事業の内容がマンネリ化しているように見え今後一層の発展のためには一段の工夫が必要と考える。

・国際交流とは何か？という大命題をもう少し掘り下げてほしい。異文化交流という言葉が広く使われているが、それぞれの文化を持つ外国の人と対等に交流するには、まず日本人が、日本の文化をきちんと知っていないと思う。異文化交流とは、外国の食べ物を食べたり、歌や踊りを見ることではないはずで、そこに観光客をふくめ人が集まってきたから成功というものではない。ひとつのテーマで互いに話し合うとか、とくに若い学生がいるので、そんな企画が欲しかった。楽しい集いは素晴らしいし、参加した外国人は喜んだかもしれないが、その後の川越の街で、どんな風に異文化に接した成果が生きるのか。川越ではないが、埼玉県内では、蕨・川口市などで、スピーチが問題になっている。ひとりの心無いヘイトスピーチが、国際交流の積み重ねをくずすことにもなる。当日、悪意のないのは分かるが、外国人に対して無神経な興味半分の質問をしている人を見かけたので一言言っておきたい。

・グローバル化がますます進展する中で国際交流、特に地域での交流は更に求められており、協働事業としてふさわしい。

・各国の人々が一堂に会してのフェスタは、一般市民の目からは異文化の交流は出来るが、理解度はどうなるのだろう。

・各国の風習などを理解できるような意見交換の場も設けても良いのでは。

・衣装の文化、食文化については、よくわかり、子ども達にやさしい事業であったと感じました。

# 協働事業評価シート

部課名	市民部 男女共同参画課	記入年月日	平成26年1月24日
記入団体名	一般社団法人 参画社会地域フォーラム		

予算事業名	協働の推進	新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/>
-------	-------	--

協働事業名称	川越市男女共同参画検定「あなたもリーダーになろう」		
協働事業の概要	<p>川越市男女共同参画検定講座「あなたもリーダーになろう」の実施            実施日時：平成26年1月11日（土）13時～16時45分、12日（日）13時～16時            実施場所：やまぶき会館 A会議室</p> <p>・男女共同参画知識の啓蒙として1日目（1月11日）は講義、2日目（1月12日）は広範囲にわたる前日の講義のまとめとして、最低限必要な必須基礎知識を学習し、その必須基礎知識をどの程度理解したかを調べる検定を行った。            ・研修だけに終わらず、基礎知識習得度の検定を行うことにより、より知識を記憶させるというリーダー養成の事業である。検定終了後も問題検討会を行った。・検定合格者には検定合格証書と研修終了証書を交付した。（最終参加者21名）・11日の講義時間は45分講義4コマ。12日の基礎知識まとめ学習は45分講義1コマ。</p>		
協働事業の決算額	37,000	円	委託額及び補助金額を記載
事業の実施期間	26年1月11日～26年1月12日		

協働の提案者	川越市からの提案	市民活動団体等からの提案	
協働の形態	補助・助成 実行委員会・協議会	共催 協働委託 事業協力	後援 情報交換・情報提供 企画・計画立案への参画

## 【協働事業評価について】

評価基準... ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）  
 ・あまりできなかった（2点） ・全くできなかった（1点）

	評価の視点	実施段階	評 点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中	3	5	4
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中	3	5	4
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	3	5	4
4	市民活動団体等の自主性・自立性は尊重されましたか。	後	4	5	4.5
5	行政と市民活動団体等が対等な立場で事業を実施できましたか。	後	4	5	4.5
6	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	4	5	4.5
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	4	5	4.5

合計点数	30点
------	-----



『川越市男女共同参画検定「あなたもリーダーになろう」』の実施状況

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

- ・この事業の実施により、どのようにリーダーとなる人材を養成できたのか明確にする必要がある。フォローアップを行う等、人材養成に努めていただきたい。
- ・託児や視察希望者の受け入れが叶わなかったことが気になる。
- ・「漢字検定」や「英語検定」とは異なり、検定講座という講座としつつ、募集ちらしに誤解（就職活動資格に！）を招くような表現があった。

【市民活動団体等】

- ・検定講座終了後のアンケートでは、全行程参加した21人のうち15人が良い、6人がまあまあ良いと回答しており、良い評価が100%となっている。
- 今後、検定合格者については、当団体が実施する講座を案内する等のフォローアップを行っていく。また、この講座は、継続していくことに意義があるので、当団体において次年度以降も実施していく予定である。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

		評価結果
A		<b>B</b>
B	5名	
C	4名	
D	1名	

【事業に関するコメント】

別紙に転記

### 【事業に関するコメント】

・プレゼンテーションの時から考えていたが、男女共同参画に「検定」はなじまないと思う。男女共同参画というのは知識ではない。まして、二日間講義を聞いて、その後にテストをすれば点は取れる。高得点を取ったとしても、それで男女共同参画の実践にどう結び付くのか疑問が残る。男女共同参画というのは、現状では、理解されているようで、現実の社会ではなかなか実践されていないものであり、それは、少数の人を対象に「人材育成の」講座を開くより、多くの人を対象に、気が付かずに男女のすみわけを強いていたりする家庭、職場、地域の現状をとらえた分かりやすい講演会をするほうが意味があると考えます。また、今回の報告書には、講師の氏名、講義の内容も添付されていない。

・本事業は男女共同参画におけるリーダーの養成を目的とするものであろうが、この事業について市との協働事業として補助を受け行う積極的な意義が必ずしも明らかでないし（十分団体だけで事業を行いうるのではないか）、また検定については市との協働事業でもあることから市の認定を受けたものとの誤解を市民に生じる恐れはないか留意する必要がある。

・「男女共同参画」は、古くて新しく、長い我が国社会の課題であることは確かだ。それと市民により認識してもらうための工夫の一つだとは思いますが、内容が「検定」という概念に合致するか否かは疑問である。

・若い世代の方が参加された事が大変喜ばしいです。メディアで取り上げられた事も次回へつなげる宣伝になり、良かったと思います。審議委員として見学が出来なかった事が残念です。次回は会場等の広さにも配慮して下さい。

・2日間の日程で検定講座が開催されたが、リーダーとなる人材をどのように選び、今後人材養成に努めていくのか。

・2日間の養成講座で検定合格された方がこれから先どのように活動されるのか、今後とも見守りたいと思います。

・新規の事業であるからなのか、行政と団体の評点の差が気になりました。協働事業として今後行っていくには託児受入れや視察受入れ等の対応も考えてもらいたいです。参加者からの評価は高かったので、具体的な地域リーダーとしての活動までフォローし、男女共同参画を推進していただきたいです。今後に期待しています。

・この検定に合格したことによって、どうなっていくのかがわかりずらかった。

・実施団体の知名度や活動実績などをみると、検定そのものが不確かにならないか。また、検定を行うに当たり参加人数や講義時間数が不足している。リーダー養成を確かなものにすることが先決と思われる。

・川越市と協働することによって、川越市が検定の合格証書を交付していると誤解されることが懸念される。

・協働事業に検定事業は不適である。

# 協働事業評価シート

部課名	福祉部 高齢者いきがい課	記入年月日	平成26年3月25日
記入団体名	かわつる三芳野団地「お手伝いし隊」		

予算事業名	協働の推進	新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/>
-------	-------	--

協働事業名称	地域のコミュニティーづくり「お手伝いし隊」活動		
協働事業の概要	<p>1. 各種支援活動 ご家庭内外で発生し、居住者だけでは対処できない高所作業・重量物移動・お買いもの・病院への送迎・非常時の連絡などの対応をした。《送迎等22件、ゴミ処分等70件》</p> <p>2. サロン活動 健康吹き矢教室・映画鑑賞会・懇談会などを定期的に行い、参加者同士のコミュニケーションを図った。《吹き矢教室（隔月）、映画鑑賞（月1回）》</p> <p>3. 研修会の実施 他の地域の団体と交流し、活動の参考とするとともに外部とのコミュニティーも図った。</p> <p>4. その他 社協などからの要請により、ボランティア活動に参加協力した。</p>		
協働事業の決算額	20,000	円	委託額及び補助金額を記載
事業の実施期間	平成25年7月～平成26年3月		

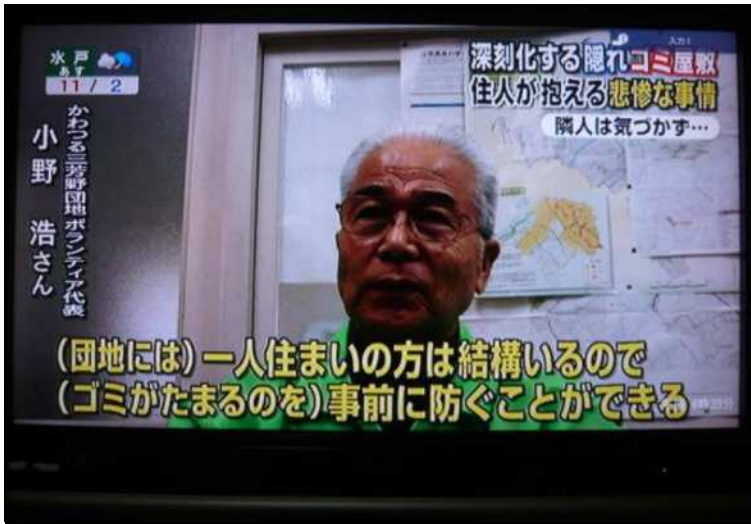
協働の提案者	川越市からの提案	市民活動団体等からの提案	
協働の形態	補助・助成 実行委員会・協議会	共催 協働委託 事業協力	後援 情報交換・情報提供 企画・計画立案への参画

## 【協働事業評価について】

評価基準... ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）  
・あまりできなかった（2点） ・全くできなかった（1点）

	評価の視点	実施段階	評点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中	4	4	4
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中	3	3	3
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	5	4	4.5
4	市民活動団体等の自主性・自立性は尊重されましたか。	後	4	4	4
5	行政と市民活動団体等が対等な立場で事業を実施できましたか。	後	4	3	3.5
6	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	5	4	4.5
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	5	5	5

合計点数	28.5点
------	-------



『かわつる三芳野団地「お手伝いし隊」の実施状況』  
テレビでの紹介

**【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】**

**【行政】**

当課は高齢者福祉の主管課であるが、住民の立場から見れば困っているのは高齢者のみでないこと、また困りごとへの手助けだけでなく予防的な関わり、世代間交流等を通じて顔の見える関係を築き、そこから具体的な生活支援サービスを行うことの効果の高さを改めて感じる事ができた。当団体がある川鶴地区のように、集合住宅が立ち並ぶ中で高齢化が進んでいる地区は、生活への支援の必要性や、閉じこもりや孤立死の防止等の課題を抱えている。行政が行う支援には限界があり、当団体のように住民同士で顔の見える関係を築き、困っていることへのちょっとしたお手伝いなど、出来ることから少しずつでも活動を進めることが、高齢者の住みよいまちづくりにつながり、そこから住民すべてが住みよいまちづくりへ発展できると考える。活動を推進するにあたり、行政の委託機関であり住民の身近にある地域包括支援センターとの関わりは、活動する者、利用する者の両方にとって重要と考えるので、今後も地域包括支援センターが積極的に住民と関わり、このような活動が各地域で広がっていくような支援が出来ればと考える。

**【市民活動団体等】**

「お手伝いし隊」の活動を始めてから約10年余、住民（特に高齢者）の方のお手伝い要望は多く、その必要性を強く感じています。幸い、協力者（有志）も多く、民生委員などの協力や地域包括支援センターの協働活動などもあり、有意義な活動が推進できていると感じています。活動を維持する時、必要なものは「人・資金・場所」であると常々感じていますが、今回、川越市の協働事業支援助成金をいただけたことは、大変に重要なことでした。世話役（代表者）の病气入院などもあり、後半は十分な活動が出来なかったことが残念に思いますし、反省点と感じています。

**【川越市協働事業審査委員会における評価】**

			評価結果
A	1名	当該協働事業を実施したことで、具体的に公共サービスが向上する等、適切な協働事業として評価できるものであった。	<b>B</b>
B	8名	当該協働事業について、課題はあるが、ほぼ適切な協働事業として評価できるものであった。	
C	1名	当該事業を協働事業として実施するには課題があるため、事業を継続する場合は見直しが必要である。	
D		協働事業としてうまく機能しなかった。	

**【事業に関するコメント】**

別紙に転記

### 【事業に関するコメント】

・行政が自ら行う高齢者に対する福祉事業には、職員の定数・資金等から手の届かない分野が少なくない。本事業はまさに家庭内で発生したゴミの処理等への支援等行政に代わって行っているもので、その意味で協働事業として優れている。

・川鶴地区は、典型的な高齢化地域であり、「お手伝い」を求める人々が多いし、役に立つ。ただ活動団体も認識しているように地域を活性化させ、それをいかに継続させるかが大きな課題であり、そのための世代間交流&若い層の引き込みとどう行政と協力してやっていくか、今回の反省を生かして欲しい。

・高齢化社会で必要とされる、地域の絆の活動は大変興味深い。しかし、このような活動は、広域に広めることが難しく三芳野団地という限定されたコミュニティーだからできることなのだろうと思う。この活動に刺激されて他の地域でも検討されることを願う。活動内容は非常にきめ細かく、行政の包括支援センターでは、ここまでできないだろうと思われるし、一方、単に近隣の住民のボランティア意識だけでは、なかなか継続は難しいと思われる。当然、行政からの助成金が必要であり、この事業を、市全体に広がる一つの試金石と考えるなら、助成金はもっと多くてもいいか考える。今後の継続について非常に関心がある。当事業としては、評価は「A」なのだが、他への広がりができていないことを考えて「B」としたことを付記する。

・川鶴地区は、典型的な高齢化地域であり、「お手伝い」を求める人々が多いし役に立つ

。ただ、活動団体も認識しているように地域を活性化させ、それをいかに継続させるかが大きな課題であり、そのための世代間交流や若い層の引き込みとどう行政と協力してやっていくか、今回の反省を生かして欲しい。

・地域福祉とはいえ、無料では頼みづらいので、少額ながらも有償としている点が良いと思う。

# 協働事業評価シート

部課名	こども未来部 保育課
団体名	こどもの根っこを育てる会

記入年月日	平成25年12月18日
-------	-------------

予算事業名	協働の推進
-------	-------

新規 <input type="checkbox"/>	継続 <input checked="" type="checkbox"/>
-----------------------------	--

協働事業名称	保育園年長児への環境教育「森のムッレ教室」	
協働事業の概要	<p><b>森のムッレ教室の開催</b>          4つの公立保育園（中央保育園、仙波町保育園、新宿町保育園、南古谷第二保育園）の年長児を対象に、仙波河岸史跡公園で、各園3回ずつ、環境教育プログラム「森のムッレ教室」を開催。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1回目のテーマ            「土に戻るゴミ、戻らないゴミ」とし、自然遊びのマナーを身につけると共に、虫探しを楽しみながら、土に戻るための虫の役割や物質循環について学ぶ。</li> <li>・2回目のテーマ            「生態系ピラミッド」とし、植物・生物どれ一つかけても、生態系は崩れてしまうことを遊びを通して学び、人間も含め自然は共生しながら成り立っていることを学ぶ。</li> <li>・3回目のテーマ            「葉っぱ観察、木の顔探し」とし、ルーペで冬芽や葉の観察をし、観察の楽しさを体感し、あらゆることが「くりかえし」していることを学ぶ。</li> </ul>	
協働事業の決算額	47,000 円	委託額及び補助金額を記載
事業の実施期間	平成25年9月13日 ~ 平成25年12月9日	

協働の提案者	川越市からの提案	市民活動団体等からの提案	
協働の形態	補助・助成 実行委員会・協議会	共催 協働委託 事業協力	後援 情報交換・情報提供 企画・計画立案への参画

## 【協働事業評価について】

評価基準... ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）  
 ・あまりできなかった（2点） ・全くできなかった（1点）

	評価の視点	実施段階	評 点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中	5	4	4.5
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中	5	5	5
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	5	5	5
4	市民活動団体等の自主性・自立性は尊重されましたか。	後	5	5	5
5	行政と市民活動団体等が対等な立場で事業を実施できましたか。	後	5	5	5
6	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	5	4	4.5
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	5	5	5

合計点数	34点
------	-----





## 『保育園年長児への環境教育「森のムツレ教室」』の実施状況

### 【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

#### 【行政】

- ・事業効果が非常に高く評価できるばかりでなく、行政との協働事業としては全国に先駆けた事例となったことも大いに評価できる。
- ・今後も、協働事業として、保育士がノウハウを学び日常の保育に活かせるようにするなど、更に充実した事業展開が必要と考える。
- ・保育と教育の双方の要素を合わせた事業であり、平成27年4月に予定される子ども・子育て支援新制度への移行に当たっての一つのモデルケースになり得る。

#### 【市民活動団体等】

本事業を行うことができ、大変感謝しております。

子供たちは、毎回教室をやるたびに、「今日は虫探し？虫見つけるの？」と聞いてきては、虫遊びを楽しみにしている様子が伺えました。出来るだけ虫遊び、虫探しをやらせてあげたいという気持ちがあるのですが、本事業のスケジュールは、4月～7月が応募・プレゼン・事業採択で、実際に稼働できるのが8月以降です。8月、9月は猛暑による熱中症の懸念から保育園では散歩を控えるところが多かったり、雨での散歩は土手を歩く場合危険を伴うことから控えるなど、日程調整が難しかったという印象です。

協働事業によって、本団体の活動はより多くの方々へ認知されるきっかけとなり、理解も広がったと考えておりますが、子供たちがもっと楽しく自然の中で触れあう機会をつくり、より教材（虫や花）が多い春～初夏にかけても本活動ができるようなスケジュールになることを希望しております。

なお、協働事業によって活動したことで、保育課全体でも本活動を認知していただくだけでなく、2年目となった今年度は、保育課から2名の職員が見学に来ていただきました。これは本事業を理解し、お互いの信頼関係を築くにはとても心強いことで、大変感謝しております。また協働事業担当の方々も、各回全てを見学しに来ていただきましたこと、選定委員長やその他委員の方にも見学に来ていただき、本活動を認知・理解いただいたことに対し大変感謝しております。協働事業1年目だった昨年度は、まず知ってもらうことを目指しましたが、2年目となる今年度の活動では、「知っていただく」だけでなく、「本活動の目的を理解していただき、応援いただいた」気持ちであります。昨年よりも、本活動を継続していくための認知度を広げることができたと実感しております。今後も保育課・保育園から協力いただき、保育園児への森のムツレ教室が継続して提供できるよう、本団体として補助金だけに頼らない自立した方法を模索していきたいと考えており、指導者の育成にも力を入れていくための事業提案も検討したいと思っております。この点につきましても、ぜひともアドバイス・ご指導いただけますようよろしくお願いいたします。

### 【川越市協働事業審査委員会における評価】

			評価結果
A	7名	当該協働事業を実施したことで、具体的に公共サービスが向上する等、適切な協働事業として評価できるものであった。	A
B	3名	当該協働事業について、課題はあるが、ほぼ適切な協働事業として評価できるものであった。	
C	0名	当該事業を協働事業として実施するには課題があるため、事業を継続する場合は見直しが必要である。	
D	0名	協働事業としてうまく機能しなかった。	

#### 【事業に関するコメント】

別紙に転記

### 【事業に関するコメント】

・子どもたちが虫や自然と触れあう事は大変良いと思いました。感想を読ませていただき事業の認知度を広げるために協働事業を行ったように感じましたが、今後は指導者育成に力を入れていき、市内全域の保育園などでも実施できるよう、各地域での指導者を増やしてほしいです。他の園の職員さんが見学・お手伝いなど試みてはどうでしょう。

・環境教育の一環として自然に親しみながら、虫や植物の生態を観察するなど、とてもすばらしい事業です。これからも幼稚園児や保育園児等につけてほしいと思います。

・日頃、自然にふれることもない子ども達である。野外において自然体験ができる喜び「森のムッレ教室」に参加した子どもから楽しかったという声を耳にし、もっと川越市内の保育園、幼稚園に広めるとよいと思う。

・各方面への認知度が拡がり大変喜ばしい事と思います。報告書も丁寧に作成されとても読みやすかったです。スケジュールの希望を叶えるために、所管課で何かしらの協力が必要と思われます。

・貴重な動植物等が各地で失われるといった悲しい出来事が起こっている中、自然を守ろう、自然環境を保全しようという活動は大変重要になってきている。その意味において本事業の意義は大きく、また参加した保育園児の自然環境の保全のマインドは高まっており効果を挙げげている様子がうかがわれる。今後、本事業が持つ環境教育のノウハウを保育士等にいかにしてトランスファーしていくかということ、及び森のムッレ教室が継続的に実施しうるよう財政基盤を強化することが重要となってくる。

・幼児期からの自然とふれあう体験教育は協働事業として実にふさわしいものであるし、年々進展している点も評価できる。

・子どもが自然の中で遊ぶ機会が少なくなっている状況の中で、非常に意味のある事業であり、何よりも、子どもが喜んで参加しているのがいい。水・土・命という大事なことを遊びながら考え、小さな虫の命、一枚の枯葉から始まる輪廻などを、幼いころに遊び、触れながら体験できることは高く評価すべき事業である。多くの保育園一特に遊び場のない無認可保育所などを対象にしてほしいと思う。このような事業は、行政が行うのは難しいだろうから、せめて、もっと多くの援助をすべきではないかと思う。指導者には、計画から実施に至るまで大変な労力と、また危険を回避する（暑さや雨などの対策も含め）ために大変な神経を使っていることが想像できる。それをすべてボランティアに頼っていいのか...このような事業には、資金的援助を惜しまず、その上で、全市的な活動に広がってもらいたいものである。

・事業の中で虫、ミミズ等生き物や葉っぱ（落ち葉）等を観察するため子ども達に探させているが、観察後、生き物については、元の場所に戻せるよう指導すべきではないか。

・市立保育園各園で実施できるようにする方法を考えるべきである。

・場所の選定の際、ダニの問題等も考慮すべきである。

・予算の関係もあるのはわかるが、7月からの事業というのがもったいない。4月からできるように検討すべきである。また、それに関連し、事業によっては単年度で補助が終了するのではないシステムを考えられないか検討すべきである。

審査委員会の市への提言として、今後、この事業を所管課に「川越市協働委託事業」として本事業を続けられるよう依頼したい。

# 協働事業評価シート

部課名	文化スポーツ部 文化芸術振興課	記入年月日	平成26年3月20日
記入団体名	川越i goまち倶楽部		

予算事業名	協働の推進	新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/>
-------	-------	--

協働事業名称	「育てi goキッズ！」事業（子どもに対する囲碁普及事業）		
協働事業の概要	<p>子ども囲碁教室の開催（毎月1回開催）  「子ども大学かわごえ」と連携し、子ども囲碁教室を7月から毎月1回開催した（2月は雪のため中止）。【ルール説明、対局指導、テキスト開発、参加カードや対局カード作成】  夏休み子ども囲碁教室の開催  生協と連携し「囲碁って面白い！」を実感してもらおうお試し囲碁教室を実施した。  クリスマスイベントの開催（12月）  プロ棋士によるゲームを取り入れた囲碁講座やチーム対抗戦、音楽家や合唱団とのコラボによるピアノ演奏やクリスマスソングの合唱などを行った。  マスコットキャラクターを制作  囲碁に親しみをもってもらえるよう、子どもたちの描いた絵を元にマスコットキャラクターを制作し、イベント等で配布する缶バッジも製作した。</p>		
協働事業の決算額	95,000	円	委託額及び補助金額を記載
事業の実施期間	平成25年7月～平成26年3月		

協働の提案者	川越市からの提案	市民活動団体等からの提案	
協働の形態	補助・助成 実行委員会・協議会	共催 協働委託 事業協力	後援 情報交換・情報提供 企画・計画立案への参画

## 【協働事業評価について】

評価基準... ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）  
・あまりできなかった（2点） ・全くできなかった（1点）

	評価の視点	実施段階	評点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中前	3	3	3
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中前	3	4	3.5
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	3	3	3
4	市民活動団体等の自主性・自立性は尊重されましたか。	後	5	5	5
5	行政と市民活動団体等が対等な立場で事業を実施できましたか。	後	5	4	4.5
6	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	3	3	3
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	5	5	5

合計点数	27点
------	-----



『育てigo  
キッズ!』事業  
(子どもに対する  
囲碁普及事業)  
の実施状況

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

協働相手である川越igoまち倶楽部は、団体としての自立性もあり次世代を見据えた事業を企画しています。

行政側としてもできる限り協力していきたいと思いますが、財政的援助となると厳しい状況があります。

【市民活動団体等】

囲碁教室やイベントに参加した親子、運営にかかわった会のスタッフともに、満足度の高いものであった。

ただ、毎月実施している囲碁教室は充実させたいと願うものの、生徒集めに苦慮。担当課とも協議し、解決策を見出したい。子どもへの普及には、親の理解を得ることが極めて重要である。クリスマスイベントや、(当該事業外ではあるが)大正浪漫夢通り商店街と共同で実施した「川越igoキッズまつり」(対象:観光に訪れた親子)では成果を上げているので、それらの事業との相乗効果を図ることも検討したい。

マスコットキャラクターについても、普及活動の一助としたいので、今後の展開について協議していく必要がある。事業全体がまだ手探り状態であり、当面は試行錯誤が続くと思われる。

協働事業以外の事業については、担当課と、十分コミュニケーションおよび対等な関係性を構築することができたので、今後はこの経験を生かし、協働事業においても、さらに情報の共有を図

【川越市協働事業審査委員会における評価】

		評価結果
A		C
B	4名	
C	6名	
D		

【事業に関するコメント】

別紙に転記

### 【事業に関するコメント】

- ・囲碁を好きな人には嬉しい事業なのだろうが、なぜ、囲碁なのか？という疑問は残る。将棋ではいけないのか.....そうした質問に答えるためには、参加者を増やしていくことしかないと思う。事業目的達成は何をもって計るのかも難しい。
- ・一般に文化、芸能、技術等の保存、伝承、普及及びその支援は行政・公共の役割かもしれないが、それは仮に行政・公共が支援等の活動を行わなければ当該文化、芸能、技術等が失われるといった恐れがある場合等に限られるのではないか。その意味で本件について市との協働事業として行うことについてはいささか検討を要すべきかもしれない。（本件団体は行政の協力なくして自力で普及活動等を行いうる力を持っているのではないか）
- ・世代間交流を囲碁を通して行い、地域の活性化をはかろうとの手段の一つとしては評価できる。子どもたちの囲碁人口をどう増やすかという課題はゲーム世代に対して大きい。是非、継続して欲しい。
- ・反省点で取り上げているように、生徒さん集めに関しては直接学校に働きかけるなど、もっと積極的な姿勢が望まれます。
- ・昨今の子どもたちの遊びはゲームばかりでコミュニケーションも取りにくくなっています。その点囲碁は人と向き合い相手がいないと出来ないものなので、その楽しさを伝える事業は良いと思いました。ただ、開催日時や告知方法、内容などを担当課と協議する必要があったと思います。子どもを対象にするのであれば夏休みなど時間を持て余している時に行えば参加者が増えるのではないかと思います。
- ・対象となる子どもへの周知徹底がなされていなかったように感じた。他団体まかせでなく、自己努力も必要か。
- ・趣旨は理解できるが参加者数が少ないように思う。協働事業として相応しい団体となるべく、努力をすべき。また、囲碁に限定すべきなのか、将棋などもあるので今後の展開を期待したい。

# 協働事業評価シート

部課名	産業観光部 観光課
団体名	川越唐人揃いパレード実行委員会

記入年月日	平成25年11月25日
-------	-------------

予算事業名	協働の推進
-------	-------

新規 <input checked="" type="checkbox"/>	継続 <input type="checkbox"/>
--	-----------------------------

協働事業名称	第9回 復活！唐人揃い - 朝鮮通信使 - 多文化共生・国際交流パレード	
協働事業の概要	江戸時代に氷川祭礼で行われていた朝鮮通信使の仮装行列「唐人揃い」を復活させ、多文化共生・国際交流のパレードを行う。 日時 2013年11月10日(日) 12:00~15:30 場所 蓮馨寺及び連雀町~札の辻(一番街・大正浪漫夢通り) 内容 開会式 パレード(約20団体400名参加) パフォーマンス(一番街の3ヶ所で)	
協働事業の決算額	200,000 円	委託額及び補助金額を記載
事業の実施期間	平成25年11月10日	

協働の提案者	川越市からの提案	市民活動団体等からの提案	
協働の形態	補助・助成 実行委員会・協議会	共催 協働委託 事業協力	後援 情報交換・情報提供 企画・計画立案への参画

## 【協働事業評価について】

評価基準... ・大変よくできた(5点) ・よくできた(4点) ・できた(3点)  
・あまりできなかった(2点) ・全くできなかった(1点)

	評価の視点	実施段階	評 点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中前	4	4	4
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中前	5	4	4.5
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	4	4	4
4	市民活動団体等の自主性・自立性は尊重されましたか。	後	5	5	5
5	行政と市民活動団体等が対等な立場で事業を実施できましたか。	後	5	5	5
6	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	5	4	4.5
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	5	5	5

合計点数	32点
------	-----



一番街での「唐人揃いパレード」の実施状況

### 【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

#### 【行政】

市民参加型のイベントとして国内外を問わず多くのグループが集まり交流することができる貴重なイベントであるだけでなく、政治的な情勢を鑑みても、市民レベルで交流が行われることで友好関係を築くことに繋がる重要なイベントであり、今後も引き続き協力し、より充実したものにしたいと考える。

#### 【市民活動団体等】

過去8年間は市からの後援と言うことでご支援をいただけてきましたが、今回は協働事業と言うことで補助金もいただきながら事業を行うことができ大変よかったですと思います。

協働事業ということで、当委員会も主催者としての責任感をこれまで以上に感じましたし、無事成功裏に終えたときは安堵感と満足感で一杯になりました。

来年は10回目という節目にあたり、「朝鮮通信使ゆかりのまち全国交流会」を川越で開催することになりました。今年の経験を踏まえ市との協働事業として更に充実したものにできればと考えております。

### 【川越市協働事業審査委員会における評価】

		評価結果
A	7名	A
B	3名	
C		
D		

#### 【事業に関するコメント】

別紙に転記

### 【事業に関するコメント】

・これだけ大規模なイベントを行ってきていた団体の実績を評価したいと思います。6年後のオリンピックでは川越も会場となっているので、このような国際的なイベントを協働の事業として市もバックアップする意味は大きいのではないかと思います。今後、具体的な公共サービス向上にどの様につながっていくのか気になります。

・楽しみにしている市民も多い催しです。10回目はもっと大々的に開催日などを宣伝して欲しいです。

・仮装行列に終わってしまうのではという不安があったが、川越でやることの意味が定着しつつあるように思える。チラシの裏面の説明が分かりやすくできているので、この文書を多く作ってほしいと思う。最近、長崎でも朝鮮通信使の行事があったが、他にもあるとのことで、来年の「ゆかりの街交流会」は望ましく、楽しみでもある。日本と韓国は、外交上も難しい局面を迎えており、また各地で在日韓国人に対する差別やヘイトスピーチなどがある昨今、こうした行事を通じて相互理解を深め、市民レベルでの友好関係がひろがることを期待したい。その意味からも、若い世代、高校生・大学生に日韓関係について、今なぜ、ここで「唐人揃い」が...をテーマに事前の勉強会などがあればいいと考える。

・伝統の継承という意味では必要な事業である。ただ、今後更に認知度を上げ継続可能な形で長く維持するための工夫が必要であると感じた。

・この事業と国際交流フェスタは同日開催で融合性が在り、更にステップアップが見込める。アルテクルブが行った地域の文化遺産を活かした観光振興・地域活性化・ミュージアム活性化事業と連携すれば川越市の一大イベントになるのでは。

・なぜ川越で「唐人揃い」を行っているのかを、もっとPRできればよいと思う。



# 協働事業評価シート

部課名	福祉部 高齢者いきがい課	記入年月日
記入団体名	NPO法人成年後見川越サポートセンター	平成26年3月24日

予算事業名	協働の推進	新規 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/>
-------	-------	--

協働事業名称	老後の安心・成年後見制度の広報事業	
協働事業の概要	<p>【1】成年後見講座の開催（2回）          日時：11月15日（金）午後 場所：クラッセ6階 受講者数：35名          日時：2月19日（水）午後 場所：クラッセ6階 受講者数：39名</p> <p>【2】成年後見・介護保険・障害年金の相談会の開催（奇数月に計4回）          日時：7月24日（水）午後 11月13日（水）午後 1月15日（水）午後          3月12日（水）午後（会場はすべて川越西文化会館）</p> <p>川越産業博覧会に出展予定だったが台風接近で中止となった。（10月26日・27日（土・日）終日、相談会と広報活動を実施予定であった。）</p>	
協働事業の決算額	184,000 円	委託額及び補助金額を記載
事業の実施期間	平成25年7月24日～平成26年3月12日	

協働の提案者	川越市からの提案	市民活動団体等からの提案	
協働の形態	補助・助成 実行委員会・協議会	共催 協働委託 事業協力	後援 情報交換・情報提供 企画・計画立案への参画

## 【協働事業評価について】

評価基準... ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）  
 ・あまりできなかった（2点） ・全くできなかった（1点）

	評価の視点	実施段階	評点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中前	4	4	4
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中前	3	3	3
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	4	4	4
4	市民活動団体等の自主性・自立性は尊重されましたか。	後	4	4	4
5	行政と市民活動団体等が対等な立場で事業を実施できましたか。	後	4	3	3.5
6	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	4	4	4
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	4	3	3.5

合計点数	26点
------	-----



『成年後見講座』の実施状況

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

成年後見制度について、興味関心を持つ方は増え続けており、それに伴い利用を考えている方も増加している。しかし、制度について漠然とした理解のみの方や、全く情報がない方が多数いるのは事実であり、市に相談が入ることも多い。制度についての情報収集や、成年後見制度利用を考えている方が相談する先として、当団体が開催する無料相談会は非常に有効であると思われる。今年度で協働事業は終了となるが（3年目）、今後も継続して開催していただくことを希望している。

【市民活動団体等】

NPOの催し「無料相談会」「成年後見講座」ともに、高齢者いきがい課の催しということで、川越市広報に掲載されました。これ以上の信頼、信用はありません。そのことに若干甘えてしまったと反省しています。そのことを活かしてもっと他に力を向ける努力が欠けていました。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

			評価結果
A	2名	当該協働事業を実施したことで、具体的に公共サービスが向上する等、適切な協働事業として評価できるものであった。	<b>B</b>
B	6名	当該協働事業について、課題はあるが、ほぼ適切な協働事業として評価できるものであった。	
C	2名	当該事業を協働事業として実施するには課題があるため、事業を継続する場合は見直しが必要である。	
D		協働事業としてうまく機能しなかった。	

【事業に関するコメント】

別紙に転記

### 【事業に関するコメント】

・成年後見制度について多くの人に知識を持ってもらうことは意味があるが、必要とする人の無料相談などは、本来、行政がやるべき仕事だと思う。家庭裁判所からの要請もあって、各種の団体（弁護士会、司法書士会、社会保険労務士会など）が、その事業を行っているはずだが、あえてNPOの提案型事業としているのはなぜなのか。むしろ、委託事業とする性格かと思う。また実際に後見開始を必要とする人に対しては何をしてあげられるのか。NPOのメンバーが候補者となって開始申し立てをするのか。最近では、生活保護を必要とする独居老人などの施設入所に当たっての「市長申し立て」が多いが、そういう人に対して後見人になってくれるのか、逆に、資産を有する人の場合、候補者になるのか、も気になる。NPOの構成メンバーなどが専門職なのか受任歴がどのくらいあるのかなど、実際の内容が報告書にはないが、ただ、普及のための広報活動が目的なのか、はっきりさせてほしい。

・本事業（成年後見講座）の実施により市民の間に成年後見制度について理解が広まったのかについて検証してもらいたい。

・成年後見制度は、必要な情報の提供や相談窓口として不可欠であるように思う。今後も続けていくべきである。

・成年後見制度を広く知ってもらうために、今後も無料相談会を地道に続けて欲しいと考えます。

・説明を聞き多少なり情報を得ることが出来たが、やっと関心を持つ程度です。是非、今後も相談会を続けてほしい。

・今後とも相談会を続けられる事を希望します。

・成年後見制度を周知する為には行政の協力が今後も必要だと思います。ただ、今回の評価シートを見るとお互いの協力が足りなかったように読み取れました。せっかく協働事業として行えた事業なのでお互いのメリットをもう少し、生かせれば良かったのではないのでしょうか。

・成年後見制度を利用する人は年々増加し、最近では社会福祉協議会等で行う、法人後見制度も議論されている。その様な中で法人後見制度のサポーター役の必要性が増してくる。資格のない個人での成年後見人は親族等に限られると思うが、成年後見制度の必要性や理解をするために有効な講座と思われる。

# 協働事業評価シート

部課名	都市計画部 都市景観課
団体名	アルテクラブ

記入年月日	平成25年11月27日
-------	-------------

予算事業名	協働の推進
-------	-------

新規 <input type="checkbox"/>	継続 <input checked="" type="checkbox"/>
-----------------------------	--

協働事業名称	地域の文化遺産を活かした観光振興・地域活性化・ミュージアム活性化支援事業	
協働事業の概要	『あるってアート2013 petit ミュージアムロード to 織物市場 & アートクラフト手づくり市 in 織物市場』の開催 実施日時：平成25年11月16日(土)、17日(日)、10時~16時 実施場所：旧川越織物市場 来場者(2日間)約2,000人  中央通りから、旧川越織物市場までの道を「ミュージアムロード」として、アートフラッグを商店の店頭飾り、ふれあいとにぎわいを創りだす場所として展開します。旧川越織物市場は実験的に休憩所とアートクラフト手づくり市として、アーティストの作品発表、販売の場とし、旧川越織物市場の活用提案を行いました。	
協働事業の決算額	198,000 円	委託額及び補助金額を記載
事業の実施期間	平成25年11月16日(土)、17日(日)	

協働の提案者	川越市からの提案	市民活動団体等からの提案	
協働の形態	補助・助成 実行委員会・協議会	共催 協働委託 事業協力	後援 情報交換・情報提供 企画・計画立案への参画

## 【協働事業評価について】

評価基準... ・大変よくできた(5点) ・よくできた(4点) ・できた(3点)  
・あまりできなかった(2点) ・全くできなかった(1点)

	評価の視点	実施段階	評点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中前	5	5	5
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中前	5	5	5
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	5	5	5
4	市民活動団体等の自主性・自立性は尊重されましたか。	後	5	5	5
5	行政と市民活動団体等が対等な立場で事業を実施できましたか。	後	5	5	5
6	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	5	5	5
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	5	5	5

合計点数	35点
------	-----



旧川越織物市場  
での「アートクラ  
フト手づくり市」  
の実施状況

### 【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

#### 【行政】

今回の協働事業は、旧川越織物市場をどのように活用していくか、また、活用することでどのような賑わいが生まれるかを知ることができる、大変有意義な事業だった。普段一般公開をしていない施設ということもあり、初めて来た来場者、出店者も多く、様々な意見を聴くことができた。また、多くの人が集まった場合の当該施設の問題点が浮き彫りになったことも今回の事業の成果と言え、今後の整備計画に反映させていきたい。

アルテクラブとは些細なことでも連絡調整をしたこともあり、信頼関係を築くことができた。事務局の方とは綿密な打ち合わせを行ったが、多くのスタッフに関わるイベントなので、今後開催する場合は、開催時間前に一度スタッフでミーティングをし、イベント当日におけるそれぞれの立場、役割を知る機会を設けると、より一層円滑に事業を行うことができるのではないかと思う。

#### 【市民活動団体等】

都市計画部都市景観課の担当者の方々には、大変お世話になりました。細かい要望にもご対応いただき、出店者事務局とも大変感謝しています。今回の協働事業は昨年に引き続き、川越市立美術館との共同作業を行い、美術館の市民ボランティアの方々の参加もあり、活動の広がりがみられました。さらに今年の開催では昨年より来場者が増えたように感じられました。毎年この開催を楽しみにして下さる市民が多くいらっしゃることは主催する私どもにとって大変うれしいことです。

### 【川越市協働事業審査委員会における評価】

			評価結果
A	7名	当該協働事業を実施したことで、具体的に公共サービスが向上する等、適切な協働事業として評価できるものであった。	<b>A</b>
B	2名	当該協働事業について、課題はあるが、ほぼ適切な協働事業として評価できるものであった。	
C	1名	当該事業を協働事業として実施するには課題があるため、事業を継続する場合は見直しが必要である。	
D		協働事業としてうまく機能しなかった。	

#### 【事業に関するコメント】

別紙に転記

### 【事業に関するコメント】

・グラフの結果から見ても幅広い年齢層や職業の方が参加されており、協働事業としてふさわしいものだったと思います。また、まちの活性化や世代間交流、地域の方々のつながりを強めた点からも高く評価できると思いました。今後の開催も楽しみにしています。

・川越織物市場の活用を考えてイベントや販売等一層の工夫をされるともっと市民も立ち寄り、活性化につながると思う。

・川越織物市場の活用を考えてアートクラフト等手作り市として作品発表れたらよかった。敷地と建物の活用に一工夫ほしいと思った。（作品はすばらしいものが販売されていたと思う。）

・イベントとしての評価と、織物市場という歴史的建造物の存在を知らせることについての評価とは別だと思う。通常閉鎖されている織物市場を広く知らしめ、そこを、今でも利用できるのだと知ってもらおうという意味では、かなりの人が集まったのだから成果があったのだと言えるのか...ただ、多くは観光客であり、ただ珍しいものを見たというだけで終わったのではないか。織物市場についてのパンフレットなどがあればよかったと思う。イベントは、出展者は多かったが統一感がない、あの狭い場所に多くの店、食べ物屋、休むベンチは無理がある。いくつかの出店者に聞いたが、多くは川越の人ではなかった。しかも、アートというにはちょっとお粗末なものもあった。フリーマーケットなら問題はないが、タイトルを実現するには、川越のアート、川越の手作業、川越の特産の出店にした方がいい。他の事業にも言えることだが、この事業が、市民の参加する、市民の喜ぶものにするのか、観光客が大勢来ればいいのか、このことを検討する必要があるのではないかと思う。また、些事ではあるが、子どもの絵によるフラッグが、終了後一週間ほど残っていた。

・行政と民間による新たな町づくりの手法として評価できる。川越の新しい魅力の発見にも連結すると感じた。

・当日のスタッフの動きが統一されていなかったように感じた。

・旧川越織物市場の活用方法の一つとして評価できる。また、継続する事により文化的な活性化も図れる。

・土、日に開催すれば観光客誘致の一助になると感じる。蔵造りと新しい文化の融合。

・新しい試みで、今後、芸術関係の掘りおこしや市の観光の活性化につながるのではないかと感じた。

・月1回できればよいと感じた。定例化とならないだろうか。

・事業というより、建物に難ありと感じる。

# 協働事業評価シート

部課名	教育総務部 文化財保護課
記入団体名	河越館の会

記入年月日	平成26年2月19日
-------	------------

予算事業名	協働の推進
-------	-------

新規 <input type="checkbox"/>	継続 <input checked="" type="checkbox"/>
-----------------------------	--

協働事業名称	河越氏の活躍とその時代を研修し文化財愛護を広める事業	
協働事業の概要	<p>歴史講演会の開催 開催日：平成25年9月21日（土）、開催場所：市立博物館視聴覚ホール テーマ「中世の河越を考える～北武蔵の視点から」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・演題1：「武蔵国府と秩父氏～大蔵と河越、“カワラケ”から見える鎌倉幕府開府以前の二極構造～」(講師、嵐山町役場 村上伸二氏)</li> <li>・演題2：「河越館跡と中世瓦～瓦から見た鎌倉後期のモノそしてヒトの交流～」(講師、ときがわ町学芸員 石川安司氏)</li> </ul> <p>河越館の会冊子作成 2月に発刊。冊子内容は、例会資料を整理、フィールドワーク・例会参加記等</p>	
協働事業の決算額	70,000 円	委託額及び補助金額を記載
事業の実施期間	平成25年9月21日 ～ 平成26年2月19日	

協働の提案者	川越市からの提案	市民活動団体等からの提案	
協働の形態	補助・助成 実行委員会・協議会	共催 協働委託 事業協力	後援 情報交換・情報提供 企画・計画立案への参画

## 【協働事業評価について】

評価基準... ・大変よくできた(5点) ・よくできた(4点) ・できた(3点)  
・あまりできなかった(2点) ・全くできなかった(1点)

	評価の視点	実施段階	評点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中	4	5	4.5
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中	5	5	5
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	4	4	4
4	市民活動団体等の自主性・自立性は尊重されましたか。	後	4	5	4.5
5	行政と市民活動団体等が対等な立場で事業を実施できましたか。	後	4	5	4.5
6	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	5	4	4.5
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	5	5	5

合計点数	32点
------	-----



## 歴史講演会の 実施状況

**武蔵国府と秩父平氏** 嵐山町役場 村上伸二氏  
 -大蔵と河越・"かわらけ"から見える鎌倉幕府開府以前の二極構造-

### 【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

#### 【行政】

前回の協働事業の経験を活かしつつ、互いの立場を尊重して事業が実施できたと思う。会の活動も、行政が当初期待していた内容を上回ってきている。今後とも活発な活動を期待したい。

#### 【市民活動団体等】

前年の協働事業の“シンポジウム”は、やまぶき会館で開催しました。今回は博物館の視聴覚ホールでの開催で、総勢120名、一般市民の来場は77名でした。

講演会の折に、川越の史跡・文化財を知り「河越館の会」活動を通して、川越のファン増強に努めるべく、通常の「河越館の会」への会員募集の他に、賛助会員の募集をさせて頂き、4名の方が入会されました。（賛助会員は、毎月の例会には出席できないが、例会資料の配布や講演会の案内を希望される方）

今年度のプレゼンテーションの折に、審査員の方から「河越館の会」のホームページによる広報手段のご要望も有りました。

その後、検討をしてみました。会の原資等も考慮し、3月初めに公開の予定で、FACEBOOKに登録しトライアルする事にしました。

### 【川越市協働事業審査委員会における評価】

			評価結果
A	4名	当該協働事業を実施したことで、具体的に公共サービスが向上する等、適切な協働事業として評価できるものであった。	B
B	5名	当該協働事業について、課題はあるが、ほぼ適切な協働事業として評価できるものであった。	
C	1名	当該事業を協働事業として実施するには課題があるため、事業を継続する場合は見直しが必要である。	
D		協働事業としてうまく機能しなかった。	

#### 【事業に関するコメント】

別紙に転記



## 【事業に関するコメント】

・文化財を保護していくためには専門知識が必要であり、貴団体がそれを広めていく事については適任だと思いました。しかし、具体的に愛護活動へつなげるものがわからない点が気になりました。協働事業として行うにはもう少し公共サービスの向上を意識した内容が含まれると良いのではないのでしょうか。

・きわめて専門的なかなか高度な講座に、これだけの参加者があったことは評価したい。しかし、会員と、一般の受講者との間に、これまでの知識の蓄積を含め多少ギャップがあるように思われた。市民への広がり、浸透については、さらに検討が必要かと考える。事業目的は、「河越氏の時代」を広く知らしめることなのか、

「文化財愛護」の意識を広めるのか、今一つはっきりしない。市民団体の一つである「河越館の会」が例会を重ねて得た知識を、一般市民にも還元しようというものにも見えるが、だとすれば、講演会は、発表の機会と考えて、会員たちが講師から得た知識、フィールドワークで学んだ結果などを、もう少し分かりやすい形で、中・高校生も含めた広い層にその学習実績などを伝える形で開催するように考えてもいいかと思う。「文化財愛護」というのは、講演会を聞いても一般の人には分かりにくい。

・歴史の継承として重要であると思う。今後どのように一般に広め、内容の工夫がなされるかが課題である。継続してやってほしい。

・趣味の会的な要素があるようにも思えるが、継続性を持たせながら川越の歴史を市民にも分かりやすく理解できるようお願いしたい。

・一般の人には難しい内容であった。講演する先生にもっと噛み砕いて話しをしてもらいたい。